

(様式1)

自己評価表 (令和4年度)

愛媛県立宇和島水産高等学校

学校番号(41)

教育方針	<p>人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての普遍的な資質を養うとともに、我が国の水産業界・海洋関連業界を進歩発展させるために必要な専門的な知識と技術を習得させ、職業人として国家社会に貢献する有為な技術者を育成する。</p>	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 我が国水産業・海洋関連産業の産業的使命を自覚させ、国際感覚を持った職業人としての資質(能力・気力・体力)と実践力を育成する。 職業人として必要な自律・協同及び勤労の精神を培うとともに、時代に適応した知識・技能を身に付けたスペシャリストを育成する。 実践体験を通して学習意欲を喚起し、問題解決能力や創造性の育成に努め、自主的に研究する態度を養う。 一人一人の個性に応じた指導を心掛けるとともに、豊かな人間性の育成に努める。 地域社会との連携を深め、水産・海洋教育の振興に努める。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習の習慣化	1日2時間以上の家庭学習を確保させる。 A: 2時間以上 B: 1時間30分~1時間59分 C: 1時間~1時間29分 D: 30分~59分 E: 29分以下	B	平日49.9分(D) 休日60.6分(C) 考査中169.3分(A) 平均93.3分(B)	クラスによって学習時間に差があるが、特に平日や休日の家庭学習について継続して指導していきたい。
	基礎学力の充実	校内漢字テスト・英単語テスト・計算力テストにおける80点以上の生徒の割合40%以上となるよう指導する。 A: 各7回以上 B: 各6回以上 C: 各5回以上 D: 各4回以上 E: 各3回以上かそれ以下	A	漢字テスト9回(A) 英単語テスト7回(A) 計算力テスト7回(A)	すべてのテストにおいて達成することができた。しかし、生徒間の点数差が大きいため、放課後等も利用して指導していきたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	各科目において、自分が調べたことや学んだこと、自分の考えを発表させる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8~9割 C: 6~7割 D: 4~5割 E: 3割以下	B	自己評価4及び3(87.0%)	授業によっては発表させる機会が少ないこともあるが、今後も継続して取り組んでいきたい。
		年間3冊以上の本を読む生徒100%を目指す。 A: 100% B: 90%以上~100%未満 C: 80%以上~90%未満 D: 70%以上~80%未満 E: 70%未満	E	1年間に図書室の本を利用した生徒49人(42.2%) そのうち3冊以上の本を読んだ生徒26人(22.4%)	図書室の利用簿により数値を出しているため、図書室以外の本を読んでいる生徒もいることも考えられる。しかし、朝読書の時間や授業での図書室の活用が無いことや、デジタル化が進んだことにより本を読む習慣が無くなっている。本を読む意義や読ませる必要があるかどうかを検討する必要がある。水産系高校なので、文献の引用に用いたり、本を読むことでの論文への活用の仕方など見直す必要があると考える。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	1か年皆勤者、各学年65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上~65%未満 C: 55%以上~60%未満 D: 50%以上~55%未満 E: 50%未満	E	1年生は70%で上回ったが、2、3年生は大幅に落ち込んだ。遅刻、早退が特に目立った。通院、体調不良、家庭の都合が主な理由。	学年団を中心に、御家庭としっかり連携する。不安要素の解消、体調管理、本人の意識向上を図りたい。
	豊かな心・健やかな体の育成	身だしなみ指導での再指導者数、各学年5%以下を目指す。 A: 5%以下 B: 6% C: 7~8% D: 9% E: 10%以上	A	生徒課まで上がる問題はなし。身だしなみに関するルール変更を本年も行った。	ルール変更を生徒会中心に案が上がってくる予定である。生徒課員と話し合いをしっかりと行っていきたい。引き続き、説諭を行う。
	奉仕精神の育成	ボランティア活動をする生徒90%を目指す。 A: 90%以上 B: 80%以上~90%未満 C: 70%以上~80%未満 D: 60%以上~70%未満 E: 60%未満	E	数字上では100%である。生徒人数減少により、人数を必要とする部活動は大変厳しい状況に追い込まれている。	部員をしっかり指導し、継続努力を行っていく。部活動数の精選を視野に入れなければならないと考える。
	安全教育の徹底	交通マナーを徹底し、登下校、休日の事故件数ゼロを目指す。 ヘルメット着用100% A: 事故0(着用100%) B: 事故3以下(着用95%以上) C: 事故5以下(着用90%以上) D: 事故7以下(着用85%以上) E: 事故8以上(着用85%未満)	B	普通車との正面衝突1件発生。ヘルメットを被っていたため、大事には至らなかった。ヘルメット非着用、並列運転で外部から2件連絡あり。	ホームルーム、生徒集会、交通安全街頭指導を通して、根気よく説諭を行っていく。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	第1志望校合格100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	B	今年は難関校への志願者が多かったが、個別指導を充実させることにより、国公立大学に2名合格することができた。また、総合型、学校推薦など指定校以外の入試方法で合格者を出すことができたことは大きな成果だったと感じる。達成率は95%である。	早めに進学意識を持ち、目標を設定して対策を始められるよう指導する。学年、教科担当を中心に個々の希望に応じた指導を計画的に行い、生徒の希望する進路の実現を目指す。
	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A: 100% B: 95%以上～100%未満 C: 90%以上～95%未満 D: 85%以上～90%未満 E: 85%未満	C	就職希望者で試験を受けた者は全員内定をいただくことができたが、受験せず未定の生徒が2名となり、93%の達成率であった。	早めに就職意識を持たせ、自分に適した職場を研究し、職場見学を通してミスマッチがなく受験できるよう指導する。学校生活の中で進路を意識した努力ができるよう、日頃から指導を行う。
		就職希望者の水産・海洋・食品系分野への就職率65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上～65%未満 C: 55%以上～60%未満 D: 50%以上～55%未満 E: 50%未満	E	今年度は進路希望が多様であり、水産・海洋・食品分野への就職率は37%にとどまった。水産系以外では、介護、製造等への就職が多かった。	学校教育全般で、3年間学んだ専門分野を生かすことの大切さや地元の水産業に携わって地域を支えていく大切さなどを育めるとよい。
	資格等取得者の増加	資格試験等に積極的に取り組み、卒業時に一人1資格以上の取得を目指す。 A: 100% B: 90%以上～100%未満 C: 80%以上～90%未満 D: 70%以上～80%未満 E: 70%未満	C	一資格以上を有する生徒は88%であった。専門学科の資格を中心に積極的に取得に挑戦している。	専門分野における資格取得を第一目標とし、漢字検定、英語検定等の一般教科の資格や工業系の資格にも積極的に挑戦するよう働きかけ、受験者には補習等の指導を充実させ、合格を目指す。
業務改善	時間外労働の削減	<u>一人1台パソコンや校務系ネットワークの活用により業務の更なる効率化を図る。引き続き有給休暇等の取得促進に努める。</u>	C	一人1台パソコンや校務系ネットワークの掲示板等を生徒及び教職員間の連絡に活用することができた。また、多くの先生方が有給休暇の取得に努めた。	一人1台パソコンや校務系ネットワークの更なる活用と業務の平準化に努める。
	職場環境の整備	<u>衛生委員会の充実及び健康相談や健康講座の実施に努め、教職員のメンタルヘルスの向上を図る。事務課との連携により施設設備の充実に努める。</u>	C	衛生委員会を中心に、事務課と連携し、校内の環境整備等の充実に努めた。教職員のメンタルヘルス改善のため、健康相談の機会を持つことができた。	教職員の疲労や心理的負担を調査し、早期に健康相談等を実施することで、負担の軽減を図る必要がある。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。